



D.I. 質問箱

Q77

クオンティフェロン（QFT）の検査結果で、「判定保留」はどう解釈したらよいのでしょうか。

A77

「判定保留」は疑陽性として考えます。被検者の感染・発病リスクの度合いを考慮し、総合的に判定します。

例えば、集団的に検査を行って QFT 陽性率が高い場合(15%^[注]以上)などには、「判定保留」者も「感染あり」として扱うことが望まれます。

QFT は接触から 8～10 週間経過しないと陽性になりません。いわゆる“ウインドウ期”も考慮し、再検査時期を決定します。

集団での QFT 陽性率が 0%または低率の場合で、かつ再検査でも「判定保留」の場合、高齢者等の理由で QFT 検査を実施しない場合に準じて胸部 X 線による経過観察とします。

[注]陽性率 15%は絶対的な基準ではなく、国内での研究成績に基づく目安として提案されたものです。

参考文献：厚生労働科学研究「感染症法に基づく結核の接触者健康診断の手引き」改訂第4版 2010年6月

お問合せ：学術データインフォメーション（D.I.）課まで
0120-14-8734（フリーダイヤル） / 082-247-4325（ダイヤルイン）



<熱中症対策> 我が家では、建物が外気の影響をととても受けやすく、この夏は何か対策をと考えて、ニガウリ（ゴーヤ）を初めてベランダで栽培しました。そして今では、緑のカーテンとなっています。でもニガウリは我が家では評判が悪く、まさに猫またぎとなっています。とはいえ、この暑さ。日中は家に誰もいなくなるのですが、家には 3 匹の猫がいます。こいつらは暑さにとても弱く、人と同じく入院や点滴をすることもあります。そこで、日中はエアコンはつけっぱなしに、夜は扇風機を回しと、エコはどこ吹く風。でも治療費のことを考えると、これでよいのだ。

この夏、みなさんのご家庭では元気でしたか、“ちっちゃい家族”は。

河本 圓（広報委員）

広報委員

曾我部 俊二 / 濱川 以行 / 熊川 良則 / 河本 圓 / 渡川 美弥子 / 初岡 博 / 中本 啓太

